

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会医療法人 凌雲会	代表者	稲次 正敬	法人・ 事業所 の特徴	住み慣れた地域・自宅での生活が継続できるよう、「通い」利用を中心に、利用者・家族の様態に応じ「訪問」「宿泊」を組み合わせ、ひとりひとりの暮らしぶりを大切にし、利用者の持っている力が発揮でき、生きがいを持てる生活を目指しています。利用者の希望を取り入れた活動も実践しています。
事業所名	小規模多機能ホーム 名東の家	管理者	福富 郁代		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	0人	2人	3人	1人	0人	4人	0人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	自己評価 9 項目をテーマに事業所内での勉強会を開催し、事業所の方針を職員で共有し、ご本人、ご家族に寄り添った支援が出来るように取り組む。	自己評価の 9 項目についてすべての研修会の実施が出来なかったが、定期的なミーティング時に話し合う機会を持ち、ご本人、ご家族に寄り添った支援に努めた。	改善に対して積極的に取り組んで関わっていると思うが、職員個々のバラつきが大きすぎる。特に項目 9「人権・プライバシー」について、疑問点を感じる	相手の立場に立った支援を目指し、ご利用者やご家族に寄り添った支援が出来るように取り組む。
B. 事業所のしつらえ・環境	清潔感を保ち、季節の花植えや季節の感じられる飾りをし、利用者様や家族の居心地の良い環境づくりを行う。	ご利用者様のご意見も取り入れ、毎月季節感のある壁飾りの作成を行うことができた。	居心地の良い環境です。改善計画内容は、適切であると感じています	季節を感じられる環境作りの継続
C. 事業所と地域のかかわり	他の施設の高齢者同士との関りの持てるイベントの企画と実施を行う。 地域の防災訓練への積極的な参加を行う。	コロナ禍の影響もあり、他施設の高齢者との関わりや、地域の防災訓練への参加が出来なかった。	高齢者が多いため、交流には無理があると思えます。出来る範囲でお願いします。	定期的な事業所周辺のゴミ拾い等の実施。 地域の方への挨拶を行う。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	支援を行うことで、事業所内だけでの活動ではなく、毎月 1 回は外出での活動の機会をつくる。	コロナ禍の為、場所や回数の制限がある中ではあったが、感染予防を行いながら少ない回数ではあるが、外出活動の実施ができた。	コロナ禍という事もあるが、そもそも地域に出向くことが必須なのでしょうか。	感染症の状況を把握し、感染予防を実施し少しでも外の空気に触れる環境に努める。
E. 運営推進会議を活かした取組み	報告事項のみでなく、毎回テーマを設け、相談や話し合いのできる機会を作る。他の事業所職員の参加依頼を行う。	コロナ禍の為、書面会議での開催になった。ご意見から業務改善へとつながった事例があった。	早くフェイスツーフェイスでの会議が出来ることを期待します。計画を立て、実行し、状況確認の上、改善するという取り組みは、レベルアップを図る上で重要。より良い支援をお願いします。	ご意見を検討し反映できるように努める。
F. 事業所の防災・災害対策	年 2 回の事業所訓練・地域の訓練に参加し、事業所に必要な情報を収集する。	消防通報・避難訓練を日中設定 1 回夜間設定 1 回実施した。	家族としては、事業所の方に頼るしかない、避難訓練は継続していただきたい。緊急時に対応できるか否かは、日頃の準備次第です。利用者本人にも理解できるようにお願いします。	年 2 回の消防訓練に加え、地震を想定した訓練の実施を行う。